様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 22 日現在

機関番号：31603
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2008～2011
課題番号：20730450
研究課題名（和文）　日常生活における防犯心理：犯罪被害回避方略尺度の開発と防犯教育効果の実証的研究
研究課題名（英文）　Crime preventions in daily life: A newly developed scale for crime prevention strategies and effects on their preventive education
研究代表者
本多　明生（HONDA　AKIO）
いわき明星大学・人文学部・研究助手
研究者番号：80433564

研究分野：応用認知心理学，実験心理学，社会心理学
科研費の分科・細目：心理学，臨床心理学，犯罪・非行
キーワード：防犯心理，防犯方略，防犯教育，リスク認知，男女差，住環境，人格特性

１．研究計画の概要

近年，市民の我が国の治安に対する不安が高まっており，防犯教育に対する注目が高まっている。しかしながら，従来の研究においては，人々が日常生活で犯罪被害に対して，どのように警戒・対処しているのか，このような個人の防犯には，どのような要因が寄与するのかに関する実証的知見が乏しかった。

本研究は、個人が日常生活で犯罪被害を警戒・対処するために用いている防犯方略（crime prevention strategies）に注目し，同方略を多次元的に測定するための新たな尺度を開発することによって，日常生活における人々の防犯心理に関する多角的な実証的検証を行い，さらに既存の防犯教育の効果検証ならびに開発した同尺度を利用した新しい防犯教育の可能性にもアプローチすることを最終的な研究目的としている。

２．研究の進捗状況

進捗状況を，以下の通りに記す。

(1)　多次元的防犯方略尺度の開発

従来の研究では，個人の防犯や警戒行動に焦点化したアプローチが行われていないため，人々が日常生活で犯罪被害に対して，どのように警戒・対処しているのかが不明確であった。そのため，多次元的に個人の防犯方略を計測・検討するための新尺度を開発し（Honda and Yamanoha, 2010），高校生と大学生の犯罪被害リスク認知と防犯方略を検討した。その結果，(a) 若年層は，警戒心，危険地区回避，リスク管理，危険経路回避，自己モニタリング，夜間外出自粛という六つの防犯方略を利用していること，(b) 同方略とリスク認知には男女差が示されること，(c) 単身居住者は家族とともに生活している人よりもリスク認知は高いが，防犯方略の程度が低くなることが明らかにされた。

(2)　防犯心理の規定因

以下の要因に着目し，実証的検討を行ったので，これまで得られた研究成果を記す。

①　人格特性要因

開発した防犯方略尺度，STAI，主要五因子性格検査を用いて探索的検討を行った結果，開放性や知性，協調性などの人格特性と防犯方略尺度との間に有意な相関が示された．特に，外向性は一部の防犯方略の程度を低下させる可能性が高いことが示唆された．これらの知見は，防犯はリスクや不安をもとに駆動・制御されているだけではなく，人格特性の影響を受けながら実行される可能性が高いことを示唆していた（本多・山入端，2009）．

さらに，個人の予防・警戒行動を規定する人格特性として，災害・防災心理学で取り上げられてきた人格特性のひとつである，Locus of Control に着目して防犯方略との関連性を検討した結果，Locus of Control の内的統制傾向が高い群は低い群よりも自制心方略を除くすべての防犯方略の程度が高いことが明らかにされた（本多，2010）。

②　住環境要因

居住形態が防犯心理にどのような影響を及ぼすのかを検討した結果，大学生の防犯心理は居住形態や居住期間によって影響を受ける可能性が高いことが示唆された．具体的には，(a) 自宅通学者は単身通学者よりも防犯方略の程度が高いこと，(b) 防犯方略への居住期間の影響は居住形態によって異なることが明らかにされた（本多・山入端，2008）。また，単身通学者では，居住者の性別や居住階数によって防犯方略の程度が異なる傾向があることも明らかにされた（本多，2010）。

さらに，大学生の防犯心理の地域差を検討

した結果，(a) 沖縄県大学生は，東北地方大学生よりも暴力・財産犯罪リスクも高く認知していること，(b) 沖縄県女性は東北地方女性よりも危険地区回避方略の程度が高いこと，(c) 自己モニタリング方略や夜間外出自粛方略は沖縄県大学生が低いという地域差が観察された。これらの知見は，物理的環境要因以外に，社会・文化的要因によっても防犯の程度が規定される可能性があることを示唆している（本多・山入端，2009)。

③ 季節要因

犯罪発生率は季節によって変動することが報告されているため，大学生を対象に防犯心理の季節的変動を検証した．その結果，大学生は男女ともに気温が上昇する夏に犯罪発生率が高くなると認知していたが，自己の犯罪被害リスク認知ならびに防犯方略の程度には季節的変動が生じにくいことを示す知見が得られた（本多・山入端，2009)。

得られた結果を統合的に考察すると，若年層は，たとえ夏に治安が悪化すると感じていてもそれを自分自身の犯罪被害とは結びつけにくいため，犯罪発生の季節的変動認知が自己の犯罪被害リスクや防犯方略には反映されにくいことが示唆された。

(3) 防犯教育効果の可能性

予備調査から，防犯グッズ利用者の防犯方略の程度は非利用者よりも高いことを示す知見が得られたため，防犯ブザーを配布・利用してもらうという介入法が防犯方略を高めることが可能かを実験的に検討した。その結果，同介入による防犯方略への時系列的影響は観察されなかった。また，同尺度への継続的な回答により部分的にではあるが，個人の防犯方略の程度が改善される可能性を示唆する知見も得られた(本多・山入端，2009)。

３．現在までの達成度

自己評価：①当初の計画以上に進展している

理由：従来の防犯心理学では，個人の防犯意識，防犯行動の多様性に注目した研究は行われていなかった。したがって，本研究で開発した，多次元的防犯方略尺度は，全く新しいものであり，同尺度を利用したこれからの多角的な防犯研究の道筋を示す画期的な研究成果であるといえる。事実，同研究成果は，国際学術誌に掲載されており，世界的にも高く評価されているといえるだろう。

また，従来，個人の防犯行動は，犯罪に対する恐怖や恐れとして捉える考え方が支配的であった。本研究の知見から，自己の行動を継続的に管理・制限することで安全を確保しようとする，個人の防犯心理の新たな側面に関する新しい視点を得ることができた。さらに，本研究は，住環境要因や季節的要因にもアプローチしており，得られた研究成果は，効果的な防犯教育の実施に必要不可欠な基礎的資料としても高い価値を有している。

４．今後の研究の推進方策

日常生活における人々の防犯心理に関する多角的な実証的アプローチをこれまで以上に強力に推進するとともに，開発した同尺度を利用した新しい防犯教育の可能性にもアプローチを継続する。

さらに，これまでの研究から得られた知見をもとに，日常生活における防犯心理の諸相に対する統合的な考察を行う。以上の今後の研究の推進方策により，高い応用的成果をあげることが可能になると考えられる。

５． 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

1. Honda, A., & Yamanoha, T. (2010). Perceived risks and crime prevention strategies of Japanese high school and university students. Crime Prevention and Community Safety, Vol. 12. 77-90. 査読あり.
2. 本多明生 (2010). 大学生におけるLocus of Control と防犯方略. いわき明星大学人文学部研究紀要, Vol. 23, 21-28. 査読なし.

〔学会発表〕（計９件）

1. 本多明生 (2010). 大学生における Locus of Control と防犯方略レベル. 日本心理学会第 74 回大会，大阪大学.
2. 本多明生・山入端津由 (2009). 大学生における防犯心理の地域差：沖縄県大学生と東北地方大学生の比較検討. 日本犯罪心理学会第 47 回大会，沖縄国際大学.
3. 本多明生・山入端津由 (2009). 大学生における防犯心理の季節的変動の検討. 日本認知心理学会第 7 回大会，立教大学.
4. 本多明生・山入端津由 (2008). 犯罪被害リスク知覚と犯罪被害回避方略の男女差. 日本心理学会第 72 回大会，北海道大学.
5. 本多明生・山入端津由 (2008). 日常生活における防犯心理：犯罪被害回避方略尺度作成の試み. 日本犯罪心理学会第 46 回大会，社会安全研究財団.

他４件

〔図書〕（計１件）

1. 本多明生 (2009). 防犯：リスクと不安. 仁平義明（編集），防災の心理学（pp. 193 -212). 東信堂.

〔その他〕

1. 2009年2月9日に,いわき明星大学にて，一般市民対象の科学研究費研究成果報告会を開催し，研究成果を発表した。
2. 日本犯罪心理学会第 47 回大会（沖縄国際大学）にて“防犯心理学の研究動向”というシンポジウムを開催。企画，司会，話題提供を担当した。